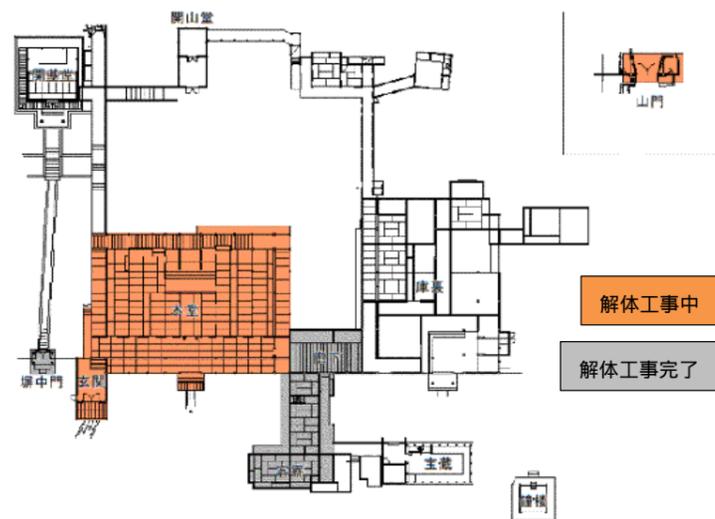


重要文化財大安寺本堂ほか7棟保存修理事業の経過報告

現在までの経過報告 (8/1 現在)

- 《本堂》
 令和2年5月 本堂素屋根完成
 7月 本堂棧瓦葺解体完了
 8月下旬 本堂木部解体作業
- 《山門》
 令和2年6月 山門素屋根完成
 7月～ 山門及び袖塀の
 木部解体作業



本堂素屋根の建設と棧瓦葺解体

本堂の解体工事は屋根の解体から始められます。去年までに塀中門や客寮など本堂周辺の建物は解体されたため、本堂の周囲を素屋根で覆う工事が始まりました。素屋根の建設は昨年6月から始まり、5月に完成しました。



素屋根棚足場 組立て中



素屋根骨組 組立て中



素屋根妻足場 組立て中



素屋根 建設完了

棧瓦葺解体の様子

5月に素屋根が完成し、まずは棧瓦葺の解体が始まりました。瓦一枚一枚に番号を振って丁寧に調査し、使用できるものと出来ないものを判別します。



【調査方法】

まずは本堂の15,000枚以上の瓦一つ一つに番号を振ります。目視による割れや欠けの調査だけでなく、瓦を叩いた音による調査も行い、目で見るだけでは分からない傷みを確認し、使用できるかどうか判別していきます。

本堂の両妻には大きな鬼瓦がつけられています。1つの鬼瓦は複数に分割して製作されており、手作業で丁寧に取り外しながら、降ろしていきます。



本堂の鬼瓦



鬼瓦解体の様子



隅棟解体の様子



軒先解体の様子



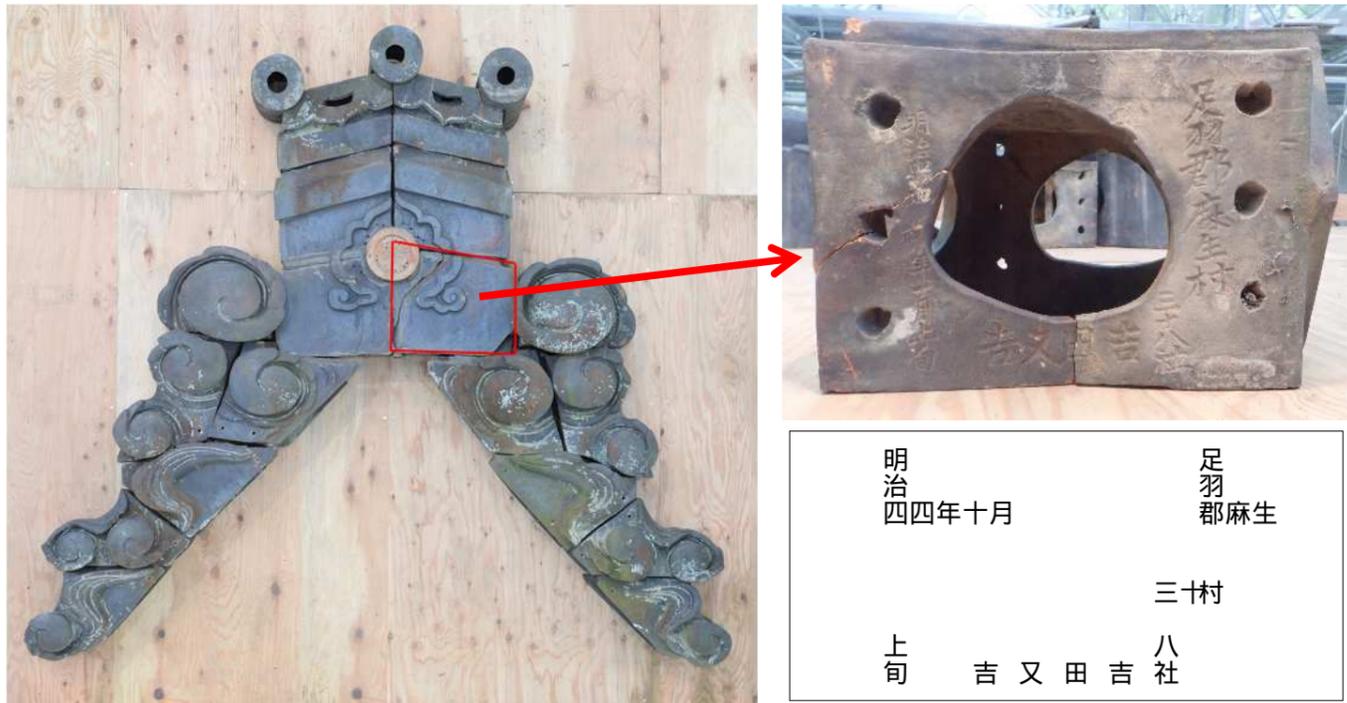
棧瓦葺解体の様子



棧瓦葺 解体完了

本堂鬼瓦の刻銘

本堂の鬼瓦の大きさは、全長が約 1.8m で幅が 2.1m になります。分割されたパーツのひとつひとつには鬼師の名前も刻まれていました。そのうちのひとつには「明治四四年」の刻銘もあり、この鬼瓦が製作された年代が分かりました。



明治 44 年というのは本堂の屋根が瓦葺きになった年だと棟札でも確認されています。また、「吉田又吉」という名も棟札に「瓦焼師」として名前が書かれており、ここでも情報が一致していました。

「足羽郡麻生村三十八社」は現在の「福井市三十八社町」にあたり、吉田又吉が地元の鬼師であることも新たに判明しました。

今後の本堂解体工事の予定

8 月のお盆明けには、瓦を取り外して見えてきた屋根の下地板(野地板)や瓦を引っかけて留めていた棧木を取り外していきます。今年の秋頃には本堂の小屋組が見えるようになります。その後は壁や床、畳を取り外したり壁を剥がしたりといった解体工事が進められます。

骨組だけの状態になったあとは、基礎部分や柱の状態を見て補修、補強していく予定です。

山門の素屋根建設～解体工事

6 月上旬に山門素屋根の建設が完了し、中では本堂と同様に解体工事が行われています。山門は全解体工事となり、骨組も全て解体され基礎だけの状態になります。

6 月下旬には山門の棧瓦葺解体が終わり、現在は木部の解体に入っています。



素屋根棚足場 組立て中



修理前写真



山門木部解体の様子(7月末)

さいごに

日頃、山門下の参道においては、不特定多数の工事関係者及び資材運搬車の往来がありご迷惑をおかけしているところではありますが、特に今年は山門の素屋根が建設された分、山門素屋根周辺の道路の見通しが悪くなっております。これにつきましても、今後さらに慎重な往来に心掛けるよう現場内で徹底いたしますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

大安禅寺

設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会（東京都荒川区）

工事請負：1 期工事・2 期工事 松浦建設株式会社（石川県能美市）